



みずべ Mizube

Vol.32



第18回 水彩フェスティバル

水彩フェスティバルとともに育った小名木川

岡上 樹(江東治水事務所 内部河川工事課長)

江東治水事務所は、毎年水彩フェスティバルの際に、パネル展示やグッズの配布等の場を提供していただき、河川事業のPRを行っています。

今年も小名木川クローバー橋の会場でブースを提供させていただきました。

水彩フェスティバルは今年18回目となりましたが、10年ほど前までの小名木川はクローバー橋付近は整備されていたものの、大部分の区間では、錆びた鋼矢板が露出し、護岸も高く街から川が見えないという状況でした。

その小名木川には、江戸時代から行徳の塩などを江戸へ運び込んだ重要な舟運ルート「塩の道」であった歴史があります。

このため、平成18年度より「塩の道」の再生をテーマに、石積み風の護岸、柳の植栽などを行い水辺を歩けるようテラス整備を進めるとともに、水位を常時低下させたことにより不要となった護岸の切り下げを行い、平成28年度に完成いたしました。

現在は、東は番所橋から西は扇橋閘門に至るまで、安心して散歩やジョギングが楽しめる親水空間となり、シーズンには釣りを楽しむ人も多く見られます。また水面では、ボートやカヌー遊びが盛んとなり、観光船も多く訪れるようになりました。

今年の水彩フェスティバルの会場においても、来場した住民の方から、「小名木川は環境が良くなったよね」との声を多くいただきました。

扇橋閘門は、10月から耐震工事のため一時閉鎖となりましたが、早期に工事を完了させ、より親しまれる小名木川となるよう努めてまいります。



2016年度の活動報告

(2016年4月～2017年3月)

昨年度も皆様のご協力で多くの事業を行なうことができました。主な活動を以下に掲載します。今後ともご協力をお願いするとともに、様々なご意見を頂ければ幸いです。

2016年3月～4月 第12回お江戸深川さくらまつり

3月26日のオープニングセレモニーからスタートし、4月2、3、9、10日の土曜日日曜日に黒船橋でお休み処を設置して、イベントの案内、焼き餅とアップルティーを販売しました。

2016年6月11日(土) 平成28年度総会

都営白河一丁目アパート1階集会室において実施しました。総会後懇親会も行なわれました。また毎月一回理事会を実施しました。

2016年5月～12月 水彩サロン

日曜日の午後2時から4時まで、水彩サロン春学期は「親子で楽しむ水辺のスポーツ」というテーマで江東区文化センターにて、秋学期は「江戸から現代へ、水辺のネットワーク」というテーマで森下文化センターにて実施しました。

春学期

5月22日 水辺のスポーツ「アクアスロン」 相原実(有明スポーツセンター所長)

6月26日 誰でも楽しめる小型ヨット「アクセスディンギー」

マークスミス(セイラビリティ東京インストラクター)

7月24日 水辺の自然体験とスポーツ 諏訪正晃(パラカヌー選手、江東区職員)

秋学期

9月25日 江戸東京の始まりは小名木川 ～家康の深謀遠慮～

久染健夫(中川船番所資料館次長)

11月06日 日本橋と深川の不思議な関係

苦瀬博仁(流通経済大学教授、東京海洋大学名誉教授)

12月11日 歴史探訪 一田中川を歩く 吉田誠一(江戸川区郷土資料室ボランティア)

※今後の水彩サロンにおいて聞きたい内容など、ご意見をいただければと思います。

2016年7月18日(月) 明治丸シンポジウム

明治天皇が函館から横浜に到着された7月20日のための祝日に開催されました。13時から東京海洋大学越中島キャンパス、越中島会館2階の講堂で「商船教育の礎を築いた明治丸」と題して4人による講演を行いました。終了後は明治丸協会の職員会館で懇親会も行いました。

2016年10月14日 KOTO水彩都市フォーラム

豊洲シビックセンターで実施されました。フォーラムは約100名超の出席のもと、小浪NP0法人江東区の水辺に親しむ会副理事長の司会で進められ、始めに山崎江東区長からご挨拶を頂きました。豊洲町会の子安町会長の代理として須永椒子理事長が挨拶、話題提供として豊洲商友会の渡辺氏、江東区の水辺に親しむ会理事の藤原氏、セイラビリティ東京のマークスミス氏、パラカヌー選手の諏訪氏の4名から発表がありました。パネルディスカッションでは、豊洲東電掘の活用、豊洲における水辺の魅力、横浜市民大学の動きなどだけでなく、会場からの水辺の活動の発表も含めて活発な討論が行われました。

2016年10月 日本橋と深川水都復活まつり

日本橋と深川森下の商店街の連携事業として企画され、10月22、23、29、30、31日に「御府内水上ライン」として船の運航を受託して実施しました。

2017年3月19日(日)、20日(月、祝) リバーフェスタ江東2017

旧中川、川の駅周辺で実施した。オープニングには山崎区長の御挨拶があり、カヌー、和船、アクセスディンギーなどによる水上パレードが実施されました。好天に恵まれ多くの人出がありました。

2017年3月 江東区CIG推進キャンペーン

江東区の緑を増やす活動を受託して行っています。マンション内のコミュニケーションや高齢者対策、環境の創造などを視野に入れ、楽しみながら事業を進めています。事業報告書を江東区に提出しました。



28年度総会



KOTO水彩都市フォーラム



日本橋と深川水都復活まつり



リバーフェスタ江東2017



CIG推進キャンペーン

水辺便り Letter

皆様から江東区の水辺のまちづくりについての文章をお寄せいただきました。



逆さツリーを眺めながらの航行



ツアーを堪能した皆さん

◇舟運ツアーで江東区内部河川の活用を

田島 卓昌 遠藤研(芝浦工業大学 土木工学科)

こんにちは、4月から水辺に親しむ会で、共に活動させて頂いております田島でございます。

私は現在、大学の卒業研究の一環として、江東区の水辺に親しむ会と共に“パッケージ型舟運ツアーの需要推計”について研究させて頂いております。

この研究は、現在活用の少ない江東区内部河川において、従来より魅力度の高い観光舟運ツアーを開発することによって、スカイツリーに訪れる観光客の皆様へ、スカイツリーから深川地域まで内部河川経由で訪れてもらうきっかけを作り、地域活性化につなげていくことを目標とした研究でございます。

江東区内部河川は江戸時代から昭和初期にかけて、材木や米などあらゆる生活物資の輸送、さらには屋形船でのお宮参りなどの舟遊びと、大変有効に活用されており、当時の人々の心も水辺と共にありました。しかし、工業化を経た今日の江東区内部河川は未だ殆ど活用されず、スカイツリーや門前仲町に訪れる観光客の視線には入っておりません。この江東区内部河川を再び活用するために、新しい舟運ツアーを企画し、多くの観光客にツアーに参加してもらい、深川地域や江東区内部河川にある水辺の魅力に気付いてもらう機会を増やそう、というわけです。

今年8月には、企画したツアーを再現した試験運航ツアーをがれおんの船を利用して行い、会員の皆様へ江東区内部河川ツアーを実際に体感して頂くイベントも開催しました。参加して頂いた皆様からは「内部河川を通るルートは意外性があり、おもしろい」「大変素晴らしい企画なので、後輩にも引き継いで事業化できるといい」などのご感想を頂き、ツアー内容の改善に役立てることができました。

今後は、企画した舟運ツアーの需要を問うアンケートをスカイツリーで行うなど、2019年のツアー実現に向けて研究を一步一步進めていこうと考えております。

これからも、皆様のお力添えを、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◇豊洲水彩まつり2017(豊洲マリナー)9月30日

藤原 治郎(セイラビリティ東京)

豊洲水彩まつりは、豊洲地元の町会、商店会、学校、企業等との連携で出店、水辺のプレジャーボートを含め、東雲運河沿いの仮称豊洲マリナー(通称東電堀)で初めての開催ができました。実行委員会(会長：豊洲地区連合商友会会長長渡辺哲三さん)に、近隣の5-6丁目の皆さん、及び江東区の水辺企業との協力が加わり、環が大きく拡がり、天候にもめぐまれ豊洲マリナーでの開催は成功裡に終わりました。

豊洲水彩まつりは前年2016年まで豊洲運河の芝浦工業大学の桟橋前で開催され、セイラビリティ東京は、水辺のスポーツの紹介を目的に2013年よりハンザクラスの小型ヨットによる乗船会を提供してきました。安全な航路から少し離れた東電掘りを“豊洲マリナー”と仮称し、ユニバーサルデザインの小型ヨットの乗船場所として行政に提案してきました。

風のみで走るヨットに多くの人が注目し乗船希望



周辺のマンションから続々と人が集まって

者が殺到、11時に受付開始し30分で受け付け締め切りとなる程の人気のある乗り物でした。インストラクターが同乗し初心者には操船指導もしました。乗船希望者は、大半が小学生以下の子ども、又は親子連れで家族で楽しんでいただきました。

豊洲マリナーは艇の保管設備ではないものの、素晴らしいプレジャーボートの桟橋がで立派な都会のマリナーなっています。今年の豊洲水彩まつりの内容は多彩で、海側の各種プレジャーボートの乗船、陸側は市場仲買組合からの支援も加わり美味しい食が提供され、多くの地域の皆さんが楽しめる水辺のイベントでした。出し物は、①運河クルーズ、②カヌー体験、③ディンギー体験、④町内対抗ゴムボートレース、⑤水陸両用バスライドック、⑥チャンネルカフェ、⑦保育園の先生による子ども向けレクリエーションでした。

豊洲水彩まつりは、盆踊りを中心とした初秋の祭りとは異なり、好天の下でのプレジャーボートが加わる正に水彩まつりでした。今後も、水辺・スポーツ・環境を重視したイベントとして続くものと確信しました。



水面をすべる様に行く小型ヨット

◇夜の水彩カフェテラス雑感

吉田 誠一(江東区の水辺に親しむ会)

それは一枚の油彩画からはじまった。或る日「旧中川・川の駅」の夕暮れってここ東京なの？ どことなくいい感じと彼は言った。

私は、ゴッホの「ローヌ川の星月夜」に似ていないか？ 夕暮れ、明かりを灯したらこの場所の風景も変わるんじゃないかなあ。と思った。

ド派手なライトアップでなくほんのり明かりを灯す河原で移り行く時間を過ごすのも楽しいと思う。

河原に思い思いの明かりを灯す。まるで河原ミュージアムのように都市環境デザインのメンバーと一緒にカフェテラスを一夜限りではあるが開催できた事、その明かり刺激的でもあった。

旧中川のナイトクルーズに乗船した人たちは、隅田

川の川明かりとは違ってここは素晴らしい！と興奮しながら丘が上がってきた。からあげ、焼き鳥、ワイン。美味と美酒の宵、酔いが流れていった。



当日飾られた「ローヌ川の星月夜」